

平成 23 年度 2次評価（基本施策評価）シート

基本施策名	12	犯罪や交通事故を未然に防ぐ	評価責任者 (基本施策主管課長)	市民生活課長 富岡 通郎
-------	----	---------------	---------------------	-----------------

基本施策の現状分析及び意図

基本施策の体系	基本目標	安心・安全
	政 策	事故や犯罪のない安全なまちづくり
①	市民意識調査結果	<p>②左記結果に対する現状分析・市民との協議結果</p> <p>満足度も必要度も平均値を超え、値も上昇している。さらに満足度の上昇するよう取組を進める。</p>
③	基本施策の現状と課題	交通事故件数は、平成21年までは減少傾向にあったが、平成22年に再び増加した。特に高齢者の交通事故が増えており、事故件数に占める割合も高くなってきている。
④	基本施策の意図、今後の展望	交通事故の発生を抑制して、事故がなく安心して暮らせる環境をつくる。交通安全に対する意識をより一層向上させるため、小さい単位での交通安全教室等の実施が必要である。高齢者を対象にした交通安全教室等は、より充実させる必要がある。

⑥基本施策構成事務事業の評価

担当課	I D	事業名	改善余地の有無	事業費（人件費込、単位：千円）			優先順位
				H22 決算額	H23 予算額	H24 所要額	
1	人権生活環境部市民生活課	150	交通安全対策経費	8,353	7,964	8,100	1
2	伊賀支所住民福祉課	151	交通安全対策経費	1,458	1,460	1,460	1
3	阿山支所住民福祉課	153	交通安全対策経費	1,467	1,467	1,467	1
4	大山田支所住民福祉課	154	交通安全対策経費	1,477	1,470	1,470	1
5	青山支所住民福祉課	155	交通安全対策経費	2,851	2,662	2,662	1
6							
7							
8							
9							
10							
（以下 続紙）							
事業費 合計				15,606	15,023	15,159	

⑦ ⑥以外で、目標達成に必要な事業

事業名	事業主体	事業内容等

⑧ 基本施策の現状分析に基づく改革案の説明

評価視点	評価コメント
1 基本施策指標の分析	交通事故件数が平成22年には増加しており、特に高齢者の占める割合が年々高くなってきているので、高齢者を対象として交通安全教室を充実させる必要がある。
2 事業構成の適当性（手段として最適か？）	民間団体、関係機関と連携して実施しており、高齢者が実践的に学び交通安全意識をさらに深めることができる。教室での学習を地域での普及に活かし、地域の交通安全のリーダーとして啓発活動してもらえ。
3 役割分担の妥当性	参加者の募集は老人クラブの協力を得ており、自動車学校の施設を利用して実施している。
4 総合評価（今後の展開、事業の見直し等）	加齢に伴う身体的機能の低下などが交通事故につながることから、運転技術の低下防止や交通法規の再認識への取組は、一人ひとりの交通安全に対する認識を高める機会となり、必要性が高い。超高齢社会により、対象者が増加することから実施回数を増やすとともに、運転者への啓発だけでなく歩行者への啓発が必要である。

⑤基本施策指標の検討・設定

現況の課題、意図、今後の展望のキーワード		考えられる基本施策指標候補		優先順位
交通安全意識が高揚する。		交通安全実践教室参加者数		2
交通人身事故の削減		交通人身事故件数		1

  

基本施策指標名	単位	過年度実績		評価年度 目標値			ベンチマーク	指標の説明
		H21	H22	H23	H25	H27		
2 交通安全実践教室参加者数	目標	50	60	60	60	60		交通安全教室に参加する人が多いほど交通安全意識が高揚した社会となり、事故件数の減少に繋げる。
	実績	38	45					
	達成率	%	76.0	75.0				
1 交通人身事故件数	目標	540	450	400	400	400		人身事故件数の削減を目指す
	実績	494	551					
	達成率	%	91.5	122.4				
	目標							
	実績							
	達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!				
	目標							
	実績							
	達成率	%	#DIV/0!	#DIV/0!				